

知的障害教育におけるダンス教材の指導実践と 課題について—小学部教育課程を中心に—

茅 野 理 子

宇都宮大学教育学部研究紀要

第66号 第1部 別刷

平成28年（2016）3月

Practices and Issues of Dance Instruction in Intellectual Disability Education

CHINO Masako

知的障害教育におけるダンス教材の指導実践と 課題について—小学部教育課程を中心に—

Practices and Issues of Dance Instruction in Intellectual Disability Education

茅野 理子[†]
CHINO Masako

概要 (Summary)

The purpose of this study was to analyze aim and method of the dance instruction of music classes and physical education classes, focusing on the curriculum in intellectual disability education (539 data). The main results were as follows. The aim in music, it was well represented in terms of fun, beauty and expression. On the other hand, the words for the aim of physical education are physical fitness, health and motor function. Dance material is used many in time for athletic meeting and event even other than a class, and it is the important learning contents in special support school. However, considering the learning content, it is desired the development of teaching methods to increase the self-esteem and to encourage independent efforts of children.

キーワード：知的障害教育，小学部，ダンス教材，教育課程

1. はじめに

日本体育学会では，平成17年度（2005）に専門分科会としてアダプテッド・スポーツ科学が設置されてから10年が経過している。この間の本専門分科会における一般研究発表の件数を，舞踊に焦点化して見てみると，表1に示すとおりであり，必ずしも多いとは言えない。

舞踊学会における障がい児・者を対象とした舞踊の一般研究発表でも同様の結果である。

その中で，近年，佐分利（1993，1996），麻生（2000），大橋（2008），伊藤（2014）ら，舞踊教育関係の研究者が知的障害教育における舞踊の意義について貴重な報告，提言をしている。

しかし，その多くは，主宰するダンスグループ等の活動における実践報告が主であり，教育課程の中で検討されたものは中学部を対象とした佐分利の論文の中に見られるだけできわめて少ない。

表1. 体育学会及び舞踊学会における一般研究発表数

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
体育学会	8*	3/33	3/30	2/28	1/36	1/32	2/25	4/24	5/29	1/20
舞踊学会	0/16	1/20	0/16	0/20	2/28	0/20	0/25	2/35	2/28	1/22

*本部企画オーガナイズドセッションのみ（発表件数／研究発表総数，ポスター発表を含む）

藤原（2004）が、「知的障害養護学校における音楽実践に関する研究は、個別の事例や各学校の実践報告をまとめたものが多く、（中略）知的障害養護学校音楽科の学習指導要領に関して考察している先行研究はきわめて少ない」（p.77）と指摘しているように、ダンス領域の内容についても、教育課程の視点から捉えた研究は少ないと言える。

一方、体育の教育課程については、渡邊ら（2007）が調査研究によって、年間の指導内容で、「表現遊び、表現運動」は小学部において35.5%であり、学部段階があがるにつれて少なくなっていると指摘している。また、体育の目標やねらいで特に重視しているものとして、小学部では身体の動きづくりが88%と最も多く、社会性の向上や仲間づくり、余暇の充実については小、中学部ではそれほど重視されていなかったと報告している。

ところで、現行の特別支援学校の学習指導要領では、ダンス領域の内容は、音楽科と体育科の両方に含まれる。その内容は、前者では、①音楽遊び、②鑑賞、③身体表現、④器楽及び歌唱の4つに、後者では、「基本的な運動」、「運動遊び」、「いろいろな運動」、「きまり・安全」で示され、その中に、表現遊び、表現運動が含まれている。

スイスの作曲家・音楽教育家であるダルクローズ（1865-1950）によって創案されたリトミックは、わが国においては、山田耕筰や石井獏によって、まず舞踊や演劇の世界へ導入され、後になって音楽教育の分野へ導入された（善本，2009）。また、音楽療法の導入もあって、養護学校・特別支援学校の身体表現（ダンス的内容）は、音楽科の中で多く取り上げられてきたように思う。

一方、ダンス教育は、戦後、クリエイティブ＝コミュニケーション型な運動体験の本質を明らかにし、「ダンス」観を確立した点に成果の一つが認められるとされ、その点において、「音楽運動」から「ダンス」へ発展したとされる（松本，1985）。

それでは、知的障害教育の中で、音楽科と体育科におけるダンス教材の目的、内容にはどのような違いがあり、それらは教育課程の中でどのように位置づけられているのだろうか。

そこで、本研究では、知的障害教育小学部でのダンス領域指導の実態について焦点をあて、その教育課程から目的、方法等を分析し、実践における傾向と課題について検討することを目的とした。

2. 研究方法

（1）文献考察

（2）ウェブ検索^{注1}により、全国特別支援学校知的障害教育校のうち小学部のある539校をデータベース化し、単一障がい学級を分析対象とした。分析の観点は、編成、授業時数、ねらい、学習内容（教材、実践事例など）である。

検索期間は、平成26年6月～9月であった。なお、補填を平成27年9月に行った。

注）ウェブ検索は、全知P連ホームページ中の概要（会員校）から情報を収集した。

<http://www.zenchipren.jp/introduction/gaiyou.html>

3. 特別支援学校知的障害教育校の教育課程とその変遷について

（1）特別支援学校知的障害教育校の教育課程

教育課程について、藤井（2004）は、「教育課程に関する法令に従い、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童生徒の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画」（p.146）と定義し、教育計画の構成要素を教育目標、教育の内容、授業

時数の3項目としている。

現在の教育課程の基本構造は、図1のようになっている。

学校教育目標の上部には、教育基本法、学習指導要領があり、学校教育目標の下には学部の目標が位置づけられる。

現在の学習指導要領に示された音楽科並びに体育科の目標、内容は以下の通りである。

1) 音楽科の目標と内容(表2-3参照)

① 目標 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心を持ち、その美しさや楽しさを味わうようにする。

② 内容 内容は、1段階では「音楽遊び」、2段階及び3段階は、「鑑賞」、「身体表現」、「器楽」及び「歌唱」の四つの観点から示している。

このうち、ダンス教材は「身体表現」の中に含まれる。

2) 体育科の目標と内容(表2-4参照)

① 目標 適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

② 内容 内容は、1段階では、「基本的な運動」、「運動遊び」、「きまり」の観点から、2段階及び3段階は、「基本的な運動」、「いろいろな運動」、「きまり・安全」の観点から示している。

ダンス教材は、「運動遊び」の中に「表現リズム遊び」として、また、「いろいろな運動」の中に「表現運動」として位置づけられている。

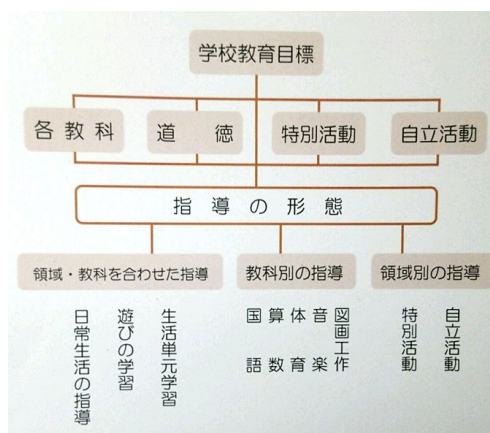


図1. 教育課程の基本構造

(2) 知的障害教育校の教育課程の変遷

音楽科と体育科における目標と内容についての変遷を表2-1~4にまとめた。

知的障害教育の教育課程編成の基準は昭和38年2月に初めて制定され、その後、昭和45、54、平成元年、11年、21年と5回にわたって改訂されてきたが、「改訂の都度、いかに社会性を培っていくかが改定の基本理念に据えられ、(略)障害の状態及び能力・適正等に応じた教育を一層充実させ、可能な限り積極的に社会参加・自立する人間の育成を目指すことが知的障害教育の基本的な考えになっている」(全国知的障害養護学校長会、1999、p.14)とされる。

わが国の史的養護・訓練論について述べる中で、一宮(1991)は、「わが国初期の精神薄弱教育を学校教育の立場から推進した先駆者」(p.78)である乙竹岩造の養護・訓練論について、次のように述べている。その教育の目的は「人格の陶冶完成」であり、運動機能面-身体発達養護論を主張、体操は音律と筋肉運動との一致、音楽は子どもの精神発達上の意義を強調した。

この変遷を見ていくと、改定はされても、その内容が、昭和38年制定のものを基盤としていることは明白である。また、当初から、ダンス教材は音楽科と体育科に混在しているものの、体育科では多様な運動の一つとして位置づけられているのに対し、音楽科では学習の主要な柱の一つに

なっていることが認められる。

ただし、平成元年まで示されていた、「音楽を聞いて、自由な身体表現をする。」という学習内容が、平成11年以降なくなり、代わって「音楽に合わせて簡単な身体表現をする。」となっているのは、後退しているようにも思われる。そのことと体育科での表現運動の位置づけが関連しているかどうかについては今後の課題としたい。

4. 全国特別支援学校知的障害教育校の教育課程におけるダンス教材について

データベースの一部である、学校教育目標、学部教育目標と音楽科・体育科の指導形態、授業時数及び目標と内容例を表3にまとめた。

(1) 教育目標

各校の学校教育目標を見ていくと、「社会参加」、「自立」という文言が多い。

(2) 指導の形態

指導の形態について触れている学校は、407校であり、その9割近くが教科の中での指導を行っていた。

教科ではあるが、合同音楽・体育と、合科になっていたり、ほかには、領域・教科をあわせた指導や遊びの指導の中で行われていたりした。

体育の場合、「体力づくり」、「からだづくり」あるいは「からだ」、「うんどう」、「からだ・リズム」という名称で、あるいは、「体育・自立活動」のように領域での指導となっており、この名称にそのねらいが端的に示されているといえよう。

(3) 授業時数について

授業時数については、教科としての体育では、多くが週2～3日で編成されているが、そのほかに例えば「朝の運動（体育）」「朝のトレーニング」「リズム運動・サーキット運動」などとして毎日同じ時間帯に設定され、児童の実態に合わせた指導といえる。

調査結果からは、音楽の授業時数はおおむね表4にそって設定されているが、体育は年間120時間から210時間まで、多くの時間が配当されている学校があった（8校）。

文部科学省のホームページ（www.mext.go.jp）「特別支援教育について 5. 特別支援教育に関する学習指導要領等」の中で、教育課程の編成について、次のように解説されている。小学校に準ずる教育を行うとともに、障害に基づく種々の困難を改善・克服するために、「自立活動」という特別の指導領域が設けられている。子どもの障害の状態に応じた弾力的な教育課程が編成できるようになっている。なお、知的障害者を教育する特別支援学校については、知的障害の特徴や学習上の特性などを踏まえた独自の教科及びその目標や内容が示されている。

指導の形態、授業時数にその反映が認められる。

(4) 音楽科及び体育科の目標について

音楽科及び体育科について、各校の目標をみていく。

音楽のねらいについて、例えば、HJ校では「見る力・聞く力・動く力・自分から楽しむ力を育てる（略）自分の気持ちをコントロールする力も育てる」としている。また、「豊かな情操」という文言が「豊かな情感」「豊かな感性や情操」などとともに多くみられた。

表4. 授業時数

	音楽	体育
第1学年	68	102
第2学年	70	105
第3学年	60	105
第4学年	60	105
第5学年	50	90
第6学年	50	90

また、それにあわせて「情緒の安定」が対になっていることが多く、ほかには「心を育てる」、「かかわる力」などの言葉もみられた。このように、音楽におけるねらいの多くは、藤原（2004）が述べているような全面発達を支える内容が導入されていると言える。

一方、体育の学習内容については、「体力の向上、自分の身体を知り、自由に動かせる力を育てることをねらいとし（略）決まりを守り、友達と協力する力を育てる」（HJ校）としているように、最も多く出てくるのは「体力の向上」であり、次いで「健康の保持増進」であった。体力や運動機能の向上（「基礎的な体の動き」）という点に主眼が置かれている。

「心身の調和的な発達」という文言もみられるが、N校の「豊かな心を育む音楽」「じょうぶな身体を育てる体育」というねらいに、2教科の特性が端的に示されているように思われる。

（5）学習内容について

1）音楽科の内容

段階で示された音楽科の内容は、1段階では「音楽遊び」、2段階及び3段階は、「鑑賞」、「身体表現」、「器楽」及び「歌唱」の四つの観点から示している。

音楽の中に取り入れられている身体表現の内容としては、手遊び、リズム遊び、リトミック、ダンスが多くみられる。具体的にみると、「リトミック（音を聞いて判断して動く、ストップ&ゴーなど）」（YA校）、「身体表現では、体を動かしながら周りの人と楽しくかかわることのできる曲を取り入れる」（HG校）、「リズム（行進、とんぼ、かにさんなど）」（TO校）とあるように、音楽に合わせて体を動かす活動が多い。

長谷川（2008）は、中学部で実践されているリトミックについての調査研究で、リトミックの活動で最も多かったのが、リズムに合わせて歩く活動で、そのうち多くの回答者が音楽に合わせて動き出したり止まったりする活動と組み合わせで行っていたと報告している。

本調査結果からも同様のことが小学部の活動でみられた。

2）体育科の内容について

体育の内容に含まれるダンスでは、「音楽を使ってのリズムダンスやリズム体操、様々な動きをまねする模倣の運動を取り入れた表現運動」（HG校）「表現運動（模倣、音楽に合わせたダンス等）」（KH校）「音楽を使ってのリズムダンスやリズム体操、様々な動きを真似する模倣の運動等を取り入れた表現運動」（HD校）であり、この中にリトミックが導入されている学校も散見される。

授業内容が明示されている中では、ダンス的な内容が含まれていない学校が半数であった。

3）特別活動等でのダンス

ダンス領域は、授業以外でも、「わくわくタイム」「なかよしひろば」などの名称での集会や他校との交流の時間に多用されていて（31校）、特別支援学校における重要な学習内容となっていることがわかる。

特に、運動会では、全校ダンスが必ず含まれており、保護者を含めて参加者全員で踊るところに特別支援学校の特徴があるように思われる（29校）。ダンスの内容は、マイムマイムなどのフォークダンスだったり、独自に踊り継がれているダンスだったりする。また、アイドルが歌う楽曲を活用したり、「エビカニクス」「ようかい体操第一」など当時の流行を取り入れたり、それぞれの学校での工夫がなされているが、既成のダンスの応用が多いようである。

また、外部講師にリトミックやダンスの指導を依頼している学校も5校ほどあり、指導上の専門性の課題がみえる。

	目標	内容
低学年	<p>(1) 音楽に親しませ、楽しく、明るい学校生活がおくれるようにする。</p> <p>(2) よい音楽に触れさせ、音楽的感覚の芽を伸ばす。</p> <p>(3) 音楽を聞きながら簡単な動作ができ、また、音による合い図などを聞き、それに応じてあらかじめめられた簡単な動作ができるようにする。</p> <p>(4) リズムカルな音楽を聞きながらリズム楽器が打てるようにする。</p> <p>(5) 歌をうたおうとする意欲を高める。</p>	<p>(1) 聞くこと。(音楽に親しむ。)</p> <p>(2) からだを動かす。(からだを動かして楽しむ。)</p> <p>ア リズムカルな音楽を聞いて手・足を自由に動かす。</p> <p>イ 音楽を聞いてどが、歩く、かけあがする、手を上げるなどの簡単な運動をする。</p> <p>ウ 拍手をしながら、また、打楽器をたたきながら歩く。</p> <p>エ 動物、乗り物、風や雨などの動きを表わした音楽を聞いて、それらからだの動きで表現する。</p> <p>(3) 楽器で演奏すること。(リズム楽器や笛になじむ。)</p> <p>(4) 歌うこと。(歌おうとする。)</p> <p>(5) 音を聞きわけること。</p> <p>ア 音の強弱や速い、おそいかわかる。</p> <p>イ 集まれ、立て、すわれなどの音による合い図に合わせて動作をする。</p> <p>ウ 簡単な楽器などで音あて遊びをする。</p>
中学年	<p>(1) 音楽に親しませ、楽しい学校生活がおくれるようにする。</p> <p>(2) よい音楽にふれさせ、音楽的感覚の発達をはかる。</p> <p>(3) 音楽に合わせて簡単な動作ができるようにする。</p> <p>(4) 皆といっしょに歌ったり、音楽に合わせて簡単な楽器を奏することができるようになる。</p> <p>(5) 好きな歌が正しく歌えるようにする。</p> <p>(6) 音に敏感に反応したり、簡単なリズム感、拍子感が身につくようにする。</p>	<p>(1) 聞くこと。(よい音楽に親しむ。)</p> <p>(2) からだを動かす。(簡単な音楽のリズムに合わせて楽しくからだを動かす。)</p> <p>ア 簡単な音楽に合わせて、手足を自由に動かす。 イ 手や足を音楽に合わせてリズムカルに動かす。</p> <p>ウ 音楽に合わせて手と足をいっしょに動かす。 エ 音楽に合わせて模倣遊びをする。</p> <p>(3) 器楽。(旋律楽器にも親しむ。)</p> <p>(4) 歌うこと。(楽しく歌う。)</p> <p>(5) 音を聞きわける。</p> <p>ア 音の強弱や速い、おそいに敏感に反応し、音の高い、低いかわかる。</p> <p>イ 集まれ、立て、すわれなどの合い図の音にびんじょうに反応する。</p> <p>ウ 身近にある楽器の音色をだいたい聞きわける。</p>
高学年	<p>(1) 音楽に親しませ、生活にうるおいをもたせるようにする。</p> <p>(2) よい音楽を静かに聞こうとする態度を養う。</p> <p>(3) 音楽に合わせて、簡単な動作ができるようにする。</p> <p>(4) 皆の前で、ひとりで歌を歌うことやせい唱や合奏に慣れて、簡単な曲目が演奏できるようになる。</p> <p>(5) 音を聞きわける力を伸ばし、合い図の音にびんじょうに反応できるようにする。</p>	<p>(1) 聞くこと。(よい音楽を楽しむ。)</p> <p>(2) からだを動かす。(リズムに合わせて、楽しくからだを動かす。)</p> <p>ア ゆるやかな速さや静かな曲に合わせて、からだを自由に動かす。</p> <p>イ 音楽に合わせて、やや複雑な手、足の運動をする。</p> <p>ウ 簡単なフォークダンスをする。</p> <p>エ 音楽を聞いて、自由な身体表現をする。</p> <p>(3) 器楽。(簡単な曲の演奏に慣れる。)</p> <p>(4) 歌うこと。(正しく歌う。)</p> <p>(5) 音を聞きわける。</p> <p>ア 和音を聞いてきめられた動作をする。</p> <p>イ 身近な生活のなかにあるいろいろな音に注意を向ける。</p>

	目標	内容
低学年	<p>(1) いろいろな運動や遊びを喜んで遊ぶようになる。</p> <p>(2) 皆といっしょに仲良く遊んだり、運動したりすることができるようにする。</p> <p>(3) あぶない遊びなどを避けて、安全に運動ができるよう気をつける態度を養う。</p> <p>(4) 食べ物に気をつけたり、からだをできるだけ清潔にする習慣を養う。</p>	<p>(1) 担任の指示によって1列に並ぶ。(2) 1列に並んで歩く。(3) 次のようなごく簡単な徒手体操をする(しゃがんだり、立ったり/足を前後、左右に開く 両足をそろえてとんだり/片足で立ったりとんだり/腕を振ったり振り回したり/片手をすりあげながら、からだを左右に曲げる/しゃがんで歩いたり、いざって歩いたり/息を大きく吸ったり、吐いたりする)。(4) ぶらんこに乗ったり、すべり台ですべったりする。(5) マット遊びでゆりかごなどをやる。(6) 低鉄棒などにぶらさがって遊ぶ。(7) コースにそってかける。(8) かけっこをする。……(約30m)</p> <p>(9) 同じ調子でかけ足をやる。……(約1分間) (10) ボールをころがしたり、投げたりする。</p> <p>(11) リズムカルの音楽にできるだけ合わせて歩く。(12) 動物や乗り物などのごく簡単な模倣遊びをする。</p> <p>(13) 簡単な鬼遊びをする。(14) すもう遊びをする。(15) 水遊びをする。</p>
中学年	<p>(1) 能力に応じた運動を行なわせることにより、身体の諸機能の調和的な発達を図るようになる。</p> <p>(2) 簡単な競技やゲームを行なわせ、ルールを守り、互いに助け合う態度を養う。</p> <p>(3) 運動やゲームなどにおいて、最後まで努力する態度や持久力を養う。</p> <p>(4) 健康、安全に注意する態度や習慣を養い、保健に関する初歩的知識をもたせるようにする。</p>	<p>(1) 1列にまっすぐ並んだり、2列に並んだりする。(2) 1列や2列に並んで歩く。(3) 次のような簡単な徒手体操をする(しゃがんだり、背伸びしたり/足を前後、左右に大きく開く/両足または片足で、その場でとんだり、とんで移動する/腕を前後・左右に振ったり、回したり/腕を前や横や上に、あげたりさげたり/片手をすりあげながらからだを左右に曲げる/腕を左右に振って首やからだを回す/いざって歩くとき、腕の力だけで前進する/息を大きく吸ったり、吐いたりする)。(4) ぶらんこに乗ってひとりごと。(5) マット遊びで横回りや前回りをする。</p> <p>(6) 低鉄棒で足をかけて振ったりする。(7) 平均台を渡ったり、平均台の上で簡単な動作をする。</p> <p>(8) 雲ていやはんど棒を使って遊ぶ。(9) とび箱遊びをする。(10) かけっこをする。……(約50m～80m) (11) 同じ調子でかけあしをする。……(約3分間) (12) 両足をそろえて立ち幅とびをする。</p> <p>(13) 片足ふみきりで幅とびをする。(14) ボールを投げたり、ついたりする。</p> <p>(15) 音楽に合わせて歩いたり、走ったりする。(16) かごめかごめなどの簡単な歌を伴う遊びをする。</p> <p>(17) 動物や乗り物などの模倣遊びをする。(18) こども用の自転車に乗る。</p> <p>(19) 助けられて、初歩の水泳をする。(20) 鬼遊びをする。(21) 片足すもうなどをする。</p> <p>(22) ころがしドッチボールをする。(23) 綱引きや球入れなどをする。</p>
高学年	<p>(1) いろいろな簡単な運動を行なわせることによって、基礎的な運動能力を養う。</p> <p>(2) きまりを守ってみんなど仲よく運動する態度を養う。</p> <p>(3) 運動に関連した健康・安全についてのきまりを守る態度や習慣を養う。</p> <p>(4) 食べものに気をつけたり、からだを清潔にする習慣を養う。</p>	<p>(1) 1列に正しく並んだり、2列にまっすぐ並んだりする。(2) 1列や2列に並んで、正しい姿勢で歩く。</p> <p>(3) 次のような徒手体操をする(ひざを深く深く曲げたり、伸ばしたり/足を左右に開閉してとぶ。/腕を前・横・上にあげたり、下げたりする。うちそとおよび前と後ろに回旋する。/首を前後左右に曲げる。左右に回す。/体を前後、左右に曲げる。左右に回す。腕立てふくがをする。/大きく息を吸ったり、吐いたりする)。</p> <p>(4) マット運動で連続して横回り、前回りをする。(5) 平均台運動で、片足で立ったり、簡単な動作をする。</p> <p>(6) 低鉄棒を使って簡単な運動をする。(7) 懸垂腫まげを少しする。(8) こく簡単なとび箱運動をする。</p> <p>(9) かけっこをする。……(約80m～100m) (10) 皆でそろってかけ足をやる。……(約15分間)</p> <p>(11) 約1時間歩く。(12) 助走をつけて幅とびをする。(13) 高とびをする。(14) スキップ歩きをする。</p> <p>(15) なわとびをする。(16) ボールを投げたり、受けたりする。(17) 初歩の水泳をする。</p> <p>(18) こども用の自転車に乗る。(19) 簡易化したベースボールやドッチボールなどをやる。</p> <p>(20) 簡単なリレーをする。(21) 簡単なフオーグダンスをする。(22) 綱引きや球入れなどをする。</p>

表2-3. 音楽科の教育課程の変遷(昭和46年以降)

昭和46年	昭和54年	平成元年	平成11年	平成21年
<p>【目標】 音楽経験をを通して、音楽的感覚の発達を図るとともに、音楽表現に必要な技能をできるだけ伸ばして、いろいろな音楽的活動に楽しく参加できる能力と態度を養う。</p> <p>【内容】 (1) 音楽が流れているなかで、いろいろな遊びや仕事などをやる。 (2) 音楽に合わせ、簡単な動作や自由な身体表現をする。 (3) 打楽器や簡単な旋律楽器の初歩的な奏法に慣れ、それらを使って簡単な合奏をやる。 (4) みんなと一緒に歌ったり、ひとりで歌ったりする。</p>	<p>【目標】 音楽の表現や鑑賞によって、音楽についての興味や関心をもち、その美しさや楽しさを味わわせる。</p> <p>【内容】 (1) 音楽を楽しむ。 (2) 音楽に合わせ、簡単な動作や自由な身体表現をする。 (3) 打楽器や簡単な旋律楽器の初歩的な奏法に慣れ、それらを使って簡単な合奏をやる。 (4) みんなと一緒に歌ったり、ひとりで歌ったりする。</p>	<p>【目標】 音楽の表現や鑑賞によって、音楽についての興味や関心をもち、その美しさや楽しさを味わわせる。</p> <p>【内容】 ○1段階 (1) 音楽が流れている中で手足を動かしたり、遊んだりする。 (2) 教師と一緒に声をしたり、音の出る身近にあるおもちゃや打楽器で自由に遊んだりする。 ○2段階 (1) 好きな曲を聴いたり、音楽やリズムに合わせて模倣表現をしたりする。 (2) いろいろな打楽器を使ってリズム遊びやリズム打ちをする。 (3) やさしい曲や曲の一部分を楽しむ歌う。 ○3段階 (1) 身近な音楽を楽しく聴く。 (2) 音楽に合わせて踊りや自由な身体表現をする。 (3) 旋律楽器に親しみ簡単なリズム合奏をする。 (4) やさしい曲を教師や友達と一緒に歌ったり一人で歌ったりする。</p>	<p>【目標】 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心をもち、その美しさや楽しさを味わうようにする。</p> <p>【内容】 ○1段階 (1) 音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。 (2) 音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器でいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。 ○2段階 (1) 好きな音楽を聴いて楽しむ。 (2) 友達や教師とともにリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。 (3) いろいろな打楽器を使ってリズム遊びなどをする。 (4) 好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しむ歌う。 ○3段階 (1) 身近な人の歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。 (2) 音楽に合わせて簡単な身体表現をする。 (3) 旋律楽器に親しみ、簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。 (4) やさしい歌を伴奏に合わせて歌ったり、教師や友達と一緒に歌ったり、一人で歌ったりする。</p>	<p>【目標】 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心をもち、その美しさや楽しさを味わうようにする。</p> <p>【内容】 (1) 音楽が流れている中で体を動かして楽しむ。 (2) 音の出るおもちゃで遊んだり、扱いやすい打楽器などでいろいろな音を鳴らしたりして楽しむ。 ○1段階 (1) 好きな音や音楽を聴いて楽しむ。 (2) 友達や教師とともに簡単なリズムの特徴を感じ取って身体を動かす。 (3) 打楽器などを使ってリズム遊びや簡単な合奏をする。 (4) 好きな歌ややさしい旋律の一部分を楽しむ歌う。 ○3段階 (1) 身近な人の歌や演奏などを聴き、いろいろな音楽に関心をもつ。 (2) 音楽に合わせて簡単な身体表現をする。 (3) 旋律楽器に親しみ、簡単な楽譜を見ながらリズム合奏をする。 (4) やさしい歌を伴奏に合わせて歌ったり、教師や友達と一緒に歌ったり、一人で歌ったりする。</p>

表2-4. 体育科の教育課程の変遷（昭和46年以降）

* 下線は筆者

昭和46年	昭和54年	平成元年	平成11年	平成21年
<p>【目標】適切な運動の経験を通して、健康の増進と体力の向上を図る。</p> <p>【内容】 (1) いろいろな運動を楽しむ。 (2) 器械・器具やボールを使った遊び、リズム遊びなどの運動をする。 (3) きまわりを守り、みんな仲間よく、安全に運動をする。</p>	<p>【目標】適切な運動の経験を通して、健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>【内容】 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの運動を楽しむ。 (2) 固定施設や器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどの運動をする。 (3) きまわりを守り、みんな仲間よく、安全に運動をする。</p>	<p>【目標】適切な運動の経験を通して、健康の増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>【内容】 ○1段階 (1) 基本的な運動に慣れる。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどに慣れる。 (3) 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動する。 ○2段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの運動をする。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などに親しむ。 (3) 簡単なきまわりを守り、仲良く安全に運動する。 ○3段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの運動を体力に応じてカー杯行う。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などをとする。 (3) いろいろなきまわりを守り、力を合わせて安全に運動する。</p>	<p>【目標】適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>【内容】 ○1段階 (1) 教師と一緒に、歩く、走るなどの基本的な運動をする。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどをとする。 (3) 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動する。 ○2段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などに親しむ。 (3) 簡単なきまわりを守り、友達とともに安全に運動をする。 ○3段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを交えるなどしていろいろな方法で行う。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などをとする。 (3) いろいろなきまわりを守り、友達と協力して安全に運動をする。</p>	<p>【目標】適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。</p> <p>【内容】 ○1段階 (1) 教師と一緒に、楽しく手足を動かしたり、歩く、走るなどの基本的な運動をしたりする。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った遊び、表現遊び、水遊びなどを楽しむ。 (3) 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をする。 ○2段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動に慣れる。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などに親しむ。 (3) 簡単なきまわりを守り、友達とともに安全に運動をする。 ○3段階 (1) 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を姿勢や動きを交えるなどしていろいろな方法で行う。 (2) いろいろな器械・器具・用具を使った運動、表現運動、水の中の運動などをとする。 (3) いろいろなきまわりを守り、友達と協力して安全に運動をする。</p>

表3. 学校教育目標・学部目標と音楽科・体育科の指導形態、授業時数及び目標と内容例

	学校教育目標	小学部教育目標	教科		授業時数		音楽科の目標と内容	体育科の目標と内容	備考
			音楽	体育	音楽	体育			
1	一人一人が力と個性を発揮し、喜びを感じあう教育を	調和のとれた育成を目指し、児童一人一人の障がいの状態及び発達段階、特性等の実態を十分に考慮し、日常生活に必要な基本的生活習慣や基礎的、基本的な知識、技能、態度を養う。	音楽	体育	音楽 (1)68 (2-6)70	(1)136 (2-6)140	・いろいろな音楽活動を通して音楽に親しみ、楽しむ気持ちを育てるとともに表現力を高める。	・いろいろな運動を通して楽しく身体を動かして、基礎的な運動能力を身に付ける。	
2	児童生徒の障がいの特性や特性等に応じた教育実践とおして、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、健康で明るくたくましく生きることができる人間を育成する。	(1)生活に必要な習慣を養い、生活に基づき一人ひとりに合った学習の定着を図る。(2)健康を維持増進し、体力の向上を図る。(3)楽しく集団生活に参加し、自己表現ができるよう指導・支援をする。(4)交流及び共同学習など様々な経験を通して、興味や関心を広げる。	音楽	体育	1	3	手遊び、リズム遊び、歌、合奏などを通じて、音楽について興味・関心をもち、その楽しさが味わえるように指導・支援をする。	様々な運動の経験を通して、健康の増進と体力の向上を図るとともに、きまりを守り、安全に留意して運動する態度を育てる。	
3	児童生徒一人一人が個性と能力を発揮し、可能性を最大限に高め、自立的・主体的な生活を送る。	(1)身の回りのことが自分でできる。(2)進んでいる活動に取り組むことができる。(3)明るく元気に友だちと遊ぶことができる。	音楽 (4-6年)	体育 (4-6年)	2	2	歌やダンス、楽器演奏等の音楽活動をおして、表現し鑑賞する楽しさを育む学習	運動の楽しさや喜びを味わいながら、丈夫な体をつくり、基本的な体の動かし方を身に付ける学習	
4	一人一人の人格と生命を尊重し、個々の障害の状態や特性等に応じた適切な教育を行い、現在及び将来にわたって生きることの喜びをもつ人間性豊かな児童生徒を育成する。	元気に登校し、明るく活動する。学校生活に慣れ、自分で選んだり伝えたりする。みんなと仲良く活動する。勉強やお手伝いをみんなと楽しく一緒にする。	(中・高学年)音楽	(中・高学年)体育・自立	2	2	・身体表現や歌遊びを中心に行い、歌唱・器楽・鑑賞の分野も取り入れながら、幅広く楽曲に親しめるようにする。	・歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動、いろいろな器械・器具を使った運動、水中での運動、表現運動など、運動に対する意欲を引き出すため、楽しいゲームや簡単なリズム遊び、ボール運動を取り入れるなどの工夫	
5	児童生徒一人一人の生命への畏敬の精神に基づき、個々の障害の状態及び能力や適性に応じて心身の調和的発達を助長し、健康で心豊かな児童生徒の育成に努める。	じょうぶな身体を育み、生活に必要な力を身に付けるとともに、明るく心豊かに生活する児童の育成をめざす。	領域・教科を合わせた指導 おんがくあそび(音楽)	おんがくあそび(運動)	1	1	遊びの指導：「みんなで楽しく」いろいろな歌を覚えた後、手遊びやダンスを覚えることで仲間意識を育てる(低)おぼえた手遊びをクラスの先生や友だちと一緒にすることで関わる気持ちを育てる(中)おぼえた手遊びを他のクラスの人や、他のクラスの先生と一緒にすることでかわる気持ちは育てる(高)(かかわる)	日常生活の指導(元気に運動)30分	
6	児童生徒一人一人の障がいの状態及び特性等に応じ、自立し社会参加ができる人間を育成する。	(1)自分のことは自分でできる児童を育てる。(2)みんなとなかなかよく活動する児童を育てる。(3)明るい元氣な児童を育てる。	音楽	体育	(1・2)-67 67 67 68	(1・2)-71 71 71 71	・「音楽遊び」「鑑賞」「身体表現」「器楽」及び「歌唱」…感受性を育て、楽しく音楽の表現活動をするところができるように指導	・いろいろな運動を通して、「歩く」「走る」「跳ぶ」「投げる」等の基本的な動作の向上を図り、自ら進んで体を動かすことができるように指導する。	

7	子ども一人一人が、自立と社会参加をめざして、その個性・能力を調和的に高め、個性・能力を主体的に行動力に高めるための主体的な行動力に身をつける。		音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽遊び、身体表現、器楽、歌唱、鑑賞を通して、音楽に興味関心を持ち、音楽の楽しさや楽しさを感じる。	基本的な運動、水泳、ゲームなどを通して、健康の増進と体力の向上をはかる。	マラソン
9	児童生徒一人一人の能力や特性に応じた教育を行うことにより、その可能性を最大限に伸ばし、自ら生かせる力を養い、積極的に社会参加し、主体的、創造的の生活を営むことができる人間を育成する。	児童生徒の自立や社会参加を目指す、児童生徒一人一人のよさを大切にしながら個性の伸長と生かせる力を活かし、生涯にわたって生きがいをもって生活できるよう、明るく思いやりや心のほほえみ、心身ともにたくましく生きる人間の育成を図る。	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽を通して、自由な表現活動を行うとともに、その楽しさを深める学習	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽についての興味や関心を持つ。(リズム打ち、簡単な合奏、歌、ダンス、音楽鑑賞)	適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活や暮らしを育む。	
11	児童生徒一人一人のよさを大切にしながら個性の伸長と生かせる力を活かし、生涯にわたって生きがいをもって生活できるよう、明るく思いやりや心のほほえみ、心身ともにたくましく生きる人間の育成を図る。	1. 元気に明るくがんばる児童 2. 身のまわりのことを自分でする児童 3. 友だちやまわりのおとなと仲良く過ごす児童 4. 自分の意思を持ち、進んで活動する児童	音楽	音楽	音楽	音楽	好きな音や音楽を聴いて歌ったり、演奏したりします。また、音楽に合わせて簡単な身体表現をします。	音楽を通して、自由な表現活動を行うとともに、その楽しさを深める学習	適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図ります。	
12	児童生徒一人一人のよさを大切にしながら個性の伸長と生かせる力を活かし、生涯にわたって生きがいをもって生活できるよう、明るく思いやりや心のほほえみ、心身ともにたくましく生きる人間の育成を図る。	■日常生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせ、健康な身体づくりの基礎を育てる。 ■コミュニケーションや学習に必要な基礎的な能力を育み、初歩的な社会生活を送る意欲や態度を育てる。 ■職業の専門性を高めるとともに、小学部段階でのキャリア教育の基盤を築き、入り込んだ職業実践に努める。	音楽	音楽	音楽	音楽	好きな音や音楽を聴いて歌ったり、演奏したりします。また、音楽に合わせて簡単な身体表現をします。	適切な運動の経験を通して、健康の保持増進と体力の向上を図ります。		
15	児童生徒が障害等による学習上又は生活上の困難を克服し、自立を図るために必要な知識・技能・態度を身に付けさせ、社会参加ができる人間を育成する。	① 明るく元気な児童を育てる。 ② 自分のことは自分でやろうとする児童を育てる。 ③ 物事を最後までがんばる児童を育てる。 ④ みんなと仲良くできる児童を育てる。	音楽	音楽	音楽	音楽	表現遊び(歌、身体表現、楽器)及び鑑賞の活動を通して、音楽の楽しさや楽しさを感じる。	基本的な運動及びいろいろな運動などに親しみながら、健康の保持増進と基礎体力の向上を図る。 ・友達とともに楽しく運動する中で、簡単なまじりを育む。	各教科等を合わせた指導を行う	
16	幼児児童生徒一人一人の障害の状態や発達段階及び特性等に応じた教育を行い、個々の能力や可能性を最大限に伸ばし、自立した社会参加ができる人間の育成をめざす。	① 明るく元気な子(丈夫な体と豊かな感性をもった明るく元気な子を育てる。)② みんなと仲良くできる子(集団活動を通して簡単なまじりや約束を守る態度を養い、助け合う心を育てる。)③ 自分ができることをがんばる子(学校生活全般において自分ができるところをやり遂げる意欲と態度を育てる。)	音楽	音楽	音楽	音楽	表現や鑑賞の活動を通して、音楽への興味や関心を持ち、その楽しさや楽しさを感じる。	児童の実態を踏まえた身体活動を通して、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活や暮らしを育む。		

5. まとめにかえて

以上から、特別支援学校におけるダンス領域指導の現状と課題についてまとめてみると、先に、ダンス領域は、授業以外でも、集会や交流の時間に多用されていて、特別支援学校における重要な学習内容となっていることがわかると述べたが、その学習内容からみると、児童の主体性を促し、他との交流をはかるといった内容になっているかは疑問に思われる面がある。動きは教師の方から与えられることが多いからである。

全面発達を目標にした音楽科の内容でも、体育科の内容でも、ややもすると、指導性が強い傾向があるように思われる。

子どもたちの動きを活かしながら、それを発展させていく授業とするなかで、子どもたちの自尊感情を高め、ひいては将来にわたりQOLを高める授業となるのではないか。その方策を本研究の課題としたい。

本報告は、科研費基盤研究 (C) 25350717の助成による。

引用・参考文献：

- ・佐分利育代（1993）知的障害児のダンス学習．鳥取大学教育学部研究報告35（2）：349-362.
- ・佐分利育代（1996）知的障害児のダンス学習におけるコミュニケーション．日本体育学会大会号（47）：592.
- ・麻生和江（2000）知的障害者と大学生の共同による作品創作活動の経過と成果．舞踊教育学研究 3：29-40.
- ・伊藤美智子（2014）知的障害者とその家族をメンバーとするダンスグループの活動に関する質的研究．（公社）日本女子体育連盟学術研究 30：29-41.
- ・大橋さつき（2008）特別支援教育・体育に活かすダンスムーブメント．明治図書：東京．Pp.144.
- ・藤原志帆（2004）知的障害養護学校音楽家の教育課程の変遷—学習指導要領および同解説の分析を通して—．広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要 XVI：77-89.
- ・渡邊貴裕ほか（2007）特別支援学校における体育の教育課程に関する調査研究．発達障害支援システム学研究 6(2)：45-51.
- ・一宮俊一（1991）養護学校教育課程論．明治図書．Pp.189.
- ・藤井聰尚（2004）特別支援教育とこれからの養護学校．ミネルヴァ書房．Pp.295.
- ・文部省（2000）盲学校、聾学校及び養護学校 学習指導要領（平成11年3月）解説—各教科、道徳及び特別活動編—．東洋館出版社．Pp.625.
- ・全国知的障害養護学校長会編著（1999）新学習指導要領実践 新しい教育課程と学習活動Q&A 特殊教育〈知的障害教育〉．東洋館出版．Pp.199.
- ・文部科学省（2009）特別支援学校学習指導要領解説総則等編（幼稚部・小学部・中学部）．教育出版．Pp.429.
- ・東京学芸大学附属養護学校編著（1970）精神薄弱児教育実践シリーズ I 精神薄弱児の教育課程と教育資料．学芸図書．Pp.230.
- ・大城政之・平田永哲（2001）知的障害養護学校の教育課程に関する研究（3）—小学部における指導方法及び指導内容についての調査と検討—．琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要

3 : 141-163.

- ・善本桂子（2009）子どものリトミック実践の現状と課題に関する研究．広島文教教育24：1-11.
- ・山口 薫編著（1983）精神薄弱児の指導事例集5 音楽・図工（美術）・体育．明治図書出版．
Pp.180
- ・松井紀和（1980）音楽療法の手引き－音楽療法家のための－．牧野出版．Pp.202.
- ・松本千代栄（1985）体育の戦後史に学ぶ ダンス教育の成果と展望．体育科教育 33(12)：42-45.
- ・長谷川徹（2008）知的障害児教育におけるリトミックに関する研究 —中学における音楽の授業を対象とした調査と教材の検討—．ウェブ検索
http://www.juen.ac.jp/handi/Course/list/h19/h19_28.pdf 平成26年6月23日取得.
- ・国立特殊教育総合研究所：特別支援教育学習指導要領等データベース．ウェブ検索
<http://www.nise.go.jp/cms/7,414,33,143.html> 平成27年9月20日取得.

平成27年10月1日受理

